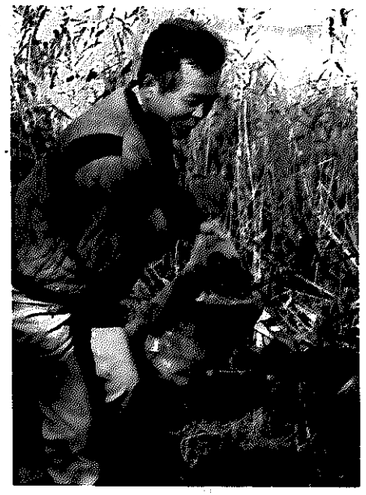


大通川クリーン作戦

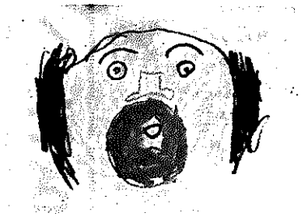
十月二十六日、へら鮒釣りの名所、大通川でクリーン作戦が展開されました。これは「自分たちが釣る場所は、自分たちの手できれいに」と、白根へら鮒釣り研究会が行ったもの。

この日は、あいにくの天候。しかし、クリーン作戦に参加した二十人は、雨と風の中を大奮闘。集められたゴミは、なんと二トン車三台分もありました。特に、ジュースやコーヒーなどの空きカンが多かったそうです。

へら研では、これからも近郊町村の釣り仲間に呼びかけ、一人一袋クリーン作戦を行っていきたいと話しています。

美しい自然を保護するためにも、お互いマナーはきちんと守りたいものです。

チビっ子画廊



かもとりごんべい

動　物　園

古川かおるちゃん
庄瀬保育園（6歳）

「お父さんとお母さん、それにお母さんの友だちと長岡の動物園へ行ったときの絵です。いろいろな動物がたくさんいて、とっても楽しかったよ」

真保孝博くん
庄瀬保育園（6歳）

「古川保育園へ行って、人形劇〝かもとりごんべい〟を見ました。おもしろかったんだよ。絵をかくことは大好きで、ロボットや飛行機の絵もかくんだ」

市民文芸

短歌

行く道は違えど心は通うなり
同じ苦難の道を歩みて　　織田　護

忘れものするなと母の声ひびく
人のなみ明日はどこに行くのやら　　小竹　城
きりの中ぼんやり見える信号機　　田村雄二
立読みをしたい心はだれもある　　金子宏樹
ばあちゃんのせわしい時間朝のめし　　小柳　仁
としよりの天気よほうはよく当たる　　山岡ひろのり
七五三それより上はないものか　　星野慎二
北国の民話を運ぶ渡り鳥　　長井　渉
三平師匠高座を運の座へ移し　　吉川　彰
スキーヤーに夢が展がる早い雪　　山岡フミ
不況とも知らずに子等はよくねだり　　成田吉子
いやになる雪だが迎える冬仕度　　保科盛広
　　米野光雄

小竹　城くん
（中学1年）

【よこがお】第一中学の一年生。川柳をつくるのは初めて。ふだんの生活を句に。クラブ活動と勉強のあい間に句づくりを。

みに通信

記事の説明
とき
ところ
対象者
内容
問い合わせ

母子健康センターご案内

〈幼児検診〉
▽12月18日（木）　㊐54年6月生まれ
▽12月19日（金）　㊐52年11月生まれ

〈乳児検診〉
▽12月17日（水）　㊐55年5月生まれ
▽12月23日（火）　㊐55年8月生まれ
（新飯田・茨曽根・庄瀬・臼井・大郷・鷲巻地区）
▽12月24日（水）　㊐55年8月生まれ
（白根・小林・根岸地区）

〈結核予防接種〉
▽12月23日（火）　ロツ反接種　㊐55年8月生まれ（新飯田・茨曽根・庄瀬・臼井・大郷・鷲巻地区）
▽12月24日（水）　ロツ反接種　㊐55年8月生まれ（白根・小林・根岸地区）

〈安産教室〉
▽12月15日（月）　㊐妊娠初期の人
▽12月22日（月）　㊐妊娠中期の人
▽12月28日（日）　㊐妊娠後期の人
午前9時30分までに集まってください。

日曜・祝日の当番医

12月7日　田中医院（水道町）

市史話

白蓮潟の開発

溝口氏の入封当時、白蓮潟一帯は潟を茅や、まこもが囲む低湿地帯であったらしい。

新発田藩は開発を基本方針とし、これにそって白蓮潟は開発された。慶長十三年、八枚村（下八枚村）の千介という人が、秀勝から荒地の開発を命じられたという記録が残る。

開発を推定すると、慶長のころから潟の周辺の荒地とわりあい浅い湛水地が、農民の入殖と村落の拡散をともなって、開発されていたらしい。

十八～十九世紀にかけて、次のような工事で耕地化を計った。

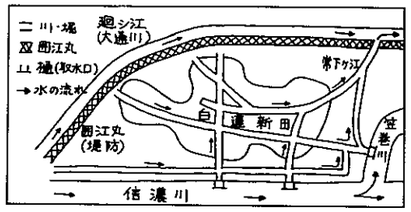
(1)大通川へ接続する廻シ江（大通川の一部となる）を掘り、新田外部からの悪水を排除。

(2)廻シ江の東岸にそって囲江丸（堤防）を築き、新田の内外をしゃ断し、湛水を防止。

(3)新田内部に堀割し、悪水を常下ケ江（堀）と西笠巻村古掛江に集めて、大通川へ放流。

しかし、いぜん水深一尺、泥深二三尺で、生産の上がらない盆状の湛水田であった。面積は、およそ百十七町歩。

寛政十二年の検地帳の一部から推察すると、新田の総石高は八百四十石ほどであったらしい。



俳句

長井要平さん
（庄瀬）

【よこがお】思いつくままに詠む。詠んで、その情景がすぐ目に浮かぶような句づくりを。

陀しさも住みいとほしき虫の声
充た足りし如と喰われおり男鎌切
荒海や佐渡へ伸び行く雁の棹
釣人の花野に埋もれ竿動く
折鶴を折る夜のしじま獺祭忌
芦の風音にも秋の深さ哉
火もなきに掌をかざしおる晩秋いろり
山里に人恋う口雀秋澄める
転作の豆掛ける稲架残しけり
一坪の建て増し広う秋桜
父の日や亡父の書斉の障子はる
敬老の日百迄ねえと祝う酒

西山了空
石田豊一
須戸義夫
針貝静男
西山静江
中山義英
石田豊実
坪川桐太郎
田中昭一
長井要平
真保清三
佐藤勇一郎
友人に誘われて俳句を。

「ありがとう」「すみません」のいえる子に

サンタのおじさん鈴鳴らし、汗をかきかきやって来た。今晩ぼくの家にも来るかしら……

小山ひろ子さん
（中鷲の木）

母は、私が小さいころ、お手伝いなどをすると「ありがとう」と、言葉をかけてくれました。

子どもが、親の手伝いをするのは、当然のことだと思うのですが……。

この何でもない平凡な言葉が、大人になって行くために、必要な言葉ではないでしょうか。

保育参観などで、先生方のお話では、この基本的な言葉のいえない子どもが多いとのことです。

私も、職場や家庭に素直な気持ちで「ありがとう」「すみません」をいうことが、何よりも大切で、何事もスムーズに行く条件のような気がします。

親子の間でも「ありがとう」「すみません」のいえる家庭生活にしたいと思っています。

そして、他人に対しても感謝の言葉を忘れずに、やさしい心で接してくれたらと、いつも願っています。

力を合わせ生きる子に

佐藤　光さん
（中央通り4）

共かせぎですので、育児はおじいちゃん、おばあちゃんにいっさいおまかせ。おじいちゃんたちの厳しい人生のわだちのひとかけらでも、学び得たら……。

ただいま、二人っ子ですが、兄は妹をかばい、妹は兄を助け、肩寄せ合って仲良く生きる子に育ってほしいと願います。幼子ですので素直でのびのびと……。

買物は計画的によく調べ

関根節代さん
（みの口）

あるおばあちゃんの節約の話。「人がおらん部屋の電気は、こまめに消せや」「ふろの水は、朝から少しずつ出して溜め水にして」「電話は用事だけいえばいい」と話す。

私はこうまで節約できないが、買物は計画的に、あきのこない物を。高価な物は時間をかけてよく調べる。物は大切に長く使うことを心がけています。

生きる子に

高橋洋子さん
（市保健婦）

【カルテ】どうも風邪には弱くて――流行期をむかえ、注意することは……。

【処方せん】インフルエンザにかかりやすいのは乳幼児、小学生、老人――つまり、からだの抵抗力の弱い年代が、最もかかりやすいのです。病気への抵抗力を保つため、節制し疲労が残らないよう、栄養と休養のバランスを心がけることが大切です。

風邪は余病を誘発しますから初期のうちに治しましょう。

14日　嶋岡医院（小須戸・若葉町）　☎㉓3962
21日　渡辺医院（能登）　☎0250-38-2118
28日　和田医院（魚町）　☎㉒2568
1月1日　田辺医院（三の町）　☎㉒3806
2日　川野医院（下木山）　☎㉒2930
3日　渡辺医院（上茨）　☎㉒2554
4日　関川医院（新飯田中町）　☎0253-75-2124
11日　真柄医院（下鷲の木）　☎0253-74-2002
　　☎0253-7㉗2011
都合で変更もあります。